

岡崎信用金庫資料館

設計:鈴木禎次

竣工:大正6年(1917年)

住所:愛知県岡崎市伝馬通1-58

交通:名鉄東岡崎駅徒歩15分



徳川家康生誕の地としても知られる岡崎市に、岡崎銀行本店として建てられた。

レンガと地元産の御影石を用い、ルネサンス様式を基調としつつ、左右非対称、全体としてかっちりとしながらも、どこかおしゃれな印象を受ける独特の意匠である。

昭和20年(1945)の岡崎空襲で外部を残して内部を焼失、岡崎銀行は東海銀行(現:三菱東京UFJ銀行)に合併された。戦後、岡崎商工会議所がこの建物を修繕・使用してきた。そして一時は解体の危機もあったが、岡崎信用金庫が買い取り、修復工事を経て昭和57年(1982)、資料館として生まれ変わった。

現在、内部は無料公開されており、1階は同信用金庫のあゆみや市民ギャラリー、2階は世界の貨幣コーナーや城下町岡崎の歴史紹介コーナーなどとなっている。

設計者・鈴木禎次【すずきていじ・明治3年(1870)～昭和16年(1941)】は、名古屋高等工業で教鞭をとる傍ら、愛知県を中心とした東海地区に多くの建築を手がけ『東海建築会の巨匠』といわれた。また、鈴木は夏目漱石【慶応3年(1867)～大正5年(1916)】の義弟(漱石夫人の妹婿)でもあり、東京・雑司ヶ谷霊園にある漱石の墓標も鈴木的设计によるものである。

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンスソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。

雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。